

# 政令市移行 市民の「期待」と「不安」にしっかりと応えるべき

……7・8月に市内18カ所で、政令市に関する市民説明会が開かれました……

## すべての市民に説明が届かず、疑問に答えられていません

7月16日～8月4日まで、市内18カ所・19回の市民説明会が開かれ、総計793人の参加でした。説明内容は、政令市移行の経緯と今後の予定、県からの権限委譲、住所表示の変更、区役所・出張所の機能、区民会議や区バスなどについてです。

## 区バス運行に問題山積、しかも「区バス」だけでは不便が解消しません

どこの説明会でも、「区バス」への疑問や不安がたくさん出されました。

① 区役所が、遠く不便な区では、何度も乗換え片道1時間もかかったり、遠い分運賃負担が重いなど、不便は区バスでは解消されないこと

## 出張所の機能を拡充して、身近なところで住民サービスの提供を！

「植木に区役所を置くというとき、『皆さんには迷惑をかけない』という説明があった。ところが高いバス代を払い、長時間かけて区役所へ行かなくてはならない。

400人の会場にわずか18人のところもあり、説明会でも「町内毎の説明会を要望してきた。バス路線もなく、車も自転車も乗れないので、市民センターへ夜行くのは困難で、参加しにくい」という意見もありました。

② 「行政バス」としてスタートする区バスは、利用が少なければ廃止になり、費用の不足分が住民負担の「住民バス」になること

などが明らかになりました。車の使えない生活保護者が、遠い区役所へ高い運賃を払わなければなりません。

区バスの利用が少なければ住民負担というのは行政の一方的な考え。清水市民センターでなんでもできるようにしてほしい」と、出張所拡充の要望がありました。

## 消防5署体制を急いで！

消防署設置のめどが立っていない北区では、速やかな消防署の設置が求められました。



## 【変更のお知らせ】

### 熊本港を考える集い

とき 9月2日(金) 午後7時  
ところ パレア9階第4会議室

\* お知らせしていた集いの日時・会場が上記のように変更になります。

## 【9月議会日程】

9月5日 開会(本会議)  
7～13日 一般質問  
14～ 予算決算委員会(概況説明)  
15～ 予算決算委員会(総括質疑)  
20～ 予算決算委員会(分科会)  
および各常任委員会  
27日 予算決算委員会  
(縮括総括質疑)  
29日 最終日(本会議)

## \* なすまどか議員の一般質問

9月8日(木) 午前10時より  
議会棟5階本会議場

どなたでも膨張できます。

\* 請願締切りは、5日午後5時

(控室から) 益田牧子  
映画「一枚のハガキ」の思い

「今日はお祭りですが、あなたがいらつしやらないので、何の風情もありません」戦死した夫・定造への妻・友子からのハガキの文面です。この「一枚のハガキ」は、九九歳の新藤兼人監督、最後の映画です。

戦争末期に召集された百名の中年兵が、上官によるくじ引きによって、次の戦地が決められ、生死が決まります。生き残ったのはわずか六名。これは、監督の実体験です。戦死した九四人の魂が付きまとい、映画を作り続け、「一枚のハガキ」のストーリーに結実。「一人の兵士が死ねば、家庭はむちゃくちゃ。なくなつてしまつ。そういうのが戦争なんだと、それが戦争の本質なんだと伝えたい」映画に託した監督の思いです。

友子を演じる大竹しのぶさんの渾身の演技から、戦争が貧しくささやかな庶民の暮らし、人々の心を奪っていくのが迫ります。映画のラスト、友子と「一枚のハガキ」を定造から託された戦友・啓太が麦の種をまき、麦踏み、麦が豊かに実るシーンでは、庶民の逞しさを描き、「はだしのゲン」を思い出しました。

あの戦争では、三百二十万人の日本人の命、アジアでは、二千万人の命が奪われました。その犠牲者の周辺には、同じように、その何十倍の不幸苦しみがあったことでしょう。戦争の非道さに深く思いを致しました。上映館は、新市街のデンキカンです。

## 日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団  
ますだ牧子 上野みえこ なすまどか  
熊本市手取本町1-1 議会棟3階

NO. 765  
2011年8月21日  
電話 328-2656  
FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp  
ホーム：http://www.jcp-kumamoto.com/

(経済委員会大津市視察報告)

市議会議員益田牧子

## 大津市住宅等改修助成制度～地元商工会議所も評価

「これは良い制度だ！熊本市でも…」と委員の共感広がる

経済委員会で滋賀県大津市(人口33万人)の「住宅等改修助成制度」を視察しました。この制度は、緊急経済対策として2009年度からスタート。初年度は、400万円の事業費が先着順のため、3日間で終了。次年度から、事前申し込み制に切り換え、2011年度からは、800万円に倍増。対象工事費総額は、21倍の1億7067万7千円にのびます。市民や業者からは「助かった」と評価が高く、地元商工会議所も、会報で制度をPRし、申請書を窓口で置くなど力を入れています。

視察した経済委員会議員からも、「これはいい制度だ」と共感が広がりました。視察を生かし、自治体の助成金が、民間活力を引き出し、約20倍もの経済波及効果を生み出す「住宅等改修助成制度」をぜひとも熊本市で実現させたいものです。

### 大津市住宅等改修助成事業補助金制度の紹介

(必要性)

- 経済不況下における市民消費を活性化するインセンティブ
- 住宅・設備関連業者を中心とした市内中小企業者の仕事量の確保(雇用の安定)

(施工者条件)

- 市内に本社のある法人(営業所のみは対象外)、市内に住所のある個人
- (最低工事費) 20万円～

(助成額) 補助対象工事費の10%(限度額10万円)

(対象物件)

- 助成対象者が所有し、現に居住している登記済み個人住宅及び敷地内の建築物
- 集合住宅は専用部分に限る

(助成対象工事)

- 既存住宅及び敷地内外構設備の改修工事(増築含む)

例～子ども部屋の設置、台所・浴室の改修、壁紙などの模様替え、手摺の設置、段差解消、屋根・瓦の改修、外壁の塗装、窓サッシの取付、太陽光発電、エコキュート・IHキッチンヒーター設置、門扉や車庫の設置・改修工事など

## 全国4県・375自治体へ広がるリフォーム助成制度

(2011年6月13日現在)

熊本県内でも実施自治体広がる

2010年度～多良木町

2011年度～南関町、山鹿市、天草市、水俣市、上天草市でも実施へ

### “温もりのある住まいづくり”～耐震化促進も助成対象に 山鹿市「住宅リフォーム助成事業」1000万円の特徴

(目的) 市民の生活環境向上、住宅耐震化の促進、定住促進、地域経済活性化

(予算総額) 1000万円

(助成内容) 費用の10分の1相当、20万円を限度(65歳以上の場合30万円)

(補助対象住宅) 一戸建ての個人住宅又は店舗兼用住宅(店舗部分の床面積が2分の1未満)もしくはマンションなどの集合住宅(専用部分のみ)のうち、現に居住している部分で下記の何れかに該当する住宅

- \* S56年6月1日以降に建築され、又は着工した住宅
- \* S56年5月31日以前に建築され、又は着工された住宅のうち、耐震診断による上部構造評点が1.0以上である住宅

(補助対象工事)

- リフォーム工事の総額が50万円以上(税込み)
- 山鹿市住宅リフォーム登録事業者が施行すること

例～屋根、外壁の修理、内装工事(床、壁、天井材の張替え等)、ドア、ふすま、障子等、建具の取替、ガラス、網戸の交換、サッシの設置、取替、間取り等の変更に伴う壁などの改修、カウンターまたは棚の設置(建物に固定されたもののみ)

床、建具などのバリアフリー化、手すりの設置、浴室、トイレ、洗面の改修、合併浄化槽の設置(市から他の補助を受けたものは対象外)

給排水衛生設備工事(内装工事を伴うもの)、システムキッチンの設置、火災報知機の設置、給湯設備の設置(台所、浴室などの内装工事を伴う場合に限る)換気扇、全熱交換機の設置、エレベーター等の設置、スイッチ、コンセント等の電気工事、床暖房設備工事、ソーラーシステムの設置、併用住宅のうち居住部分の改修など